

きぶのきと

NO.123
月刊

第六輯 支配者篇 第十七号
昭和四十三年九月一日 発行 (非売品)
岡山県評定郡吉備町東町一三五字垣方
吉備観光協会
第122号

○ 戸川達敏 (その四)

と真達と津子の尚にもうけた秀夫は荒木喜助に養子したが、秀夫は成長して故郷を去り大段に出て郵便局に勤務して来たよう、時折リ極川の知人にたよりを寄附して来たが、大東亜戦争が起り大段が空襲に遭い大東の市街地を焼失してから後ちなにの音沙汰もなくなつたので戦災を悲しめたのは存いかという。

○ 江戸(東京)にある戸川家の墓所

戸川氏分家の菩提寺がそれ／＼五ヶ所にある。
庭瀬城主初代戸川肥后守達安の菩提寺は池上本門寺の塔中不養山永寿院である。本寺本門寺は寺を長栄山といひ、日蓮宗の宗祖日蓮上人の入寂の霊場である名である。ここはもと池上右三門大夫宗仲の屋敷であつたが弘安五年十月十二日日蓮上人はこの屋敷に入りて死去せられ、二在り日蓮上人が文保元年に堂宇を建立し開基して寺院にしたのである。

永寿院境内に空篋印塔の墓石がある。その銘に

「前戸川肥后守不養院覚如居士 寛永永安四丁卯年十二月廿五日畢
息男 土佐守(正安)起之」

その墓の右側に同じ形の達安の女の墓石がある。

「正法院殿目性神尼 寛永永安三丁丑曆七月四日入寂畢

孝子 市藏起之

これは達安が一度同族の戸川又左衛門延令に嫁したが不幸にして離別し尼となつて佛界に入り一生を終つたことをあわれに思ひ特に愛したうしく遺言によつて自分の墓の傍に葬つたものと思われ。孝子市藏とあるは正法院の弟にして庭瀬二代藩主になつた正安の俗名である。達安の墓の左側に極川領主戸川達寛の墓がある。達安の台石の上に饅頭形の主石を置く。その銘に

「敬徳院殿義勇日秀大居士 弘化第四歳丁未二月上二日」

裏面に「長興長栄西山 賜紫 日蓮 花押 五十二在の嗣法」

とあり。達寛は極川領主七代にして十八歳で歿死した。妹尾尚隆寺にある達寛の墓銘とは同じ法諱なるも目里の永隆寺にもある墓銘は敬徳院殿義勇俊親大居士とあり如何なる理由によるものかわからない。また同じ境内に備中高松領主花房忠輝寺正成以下累代の墓もある。

○ 極川領主戸川氏の菩提寺は目黒区中目里三ノ九六六天台宗三尊山永隆寺である。この寺はもと漆区三田小山町(旧久保町二ノ橋附近)にあつた天台宗三田右布山大乗寺という寺院を改めたものである。

その因縁を説くと日蓮宗の大乗院日蓮上人が元和四年に開基した寺院であるが本山の京都妙覚寺の不度不施派に属して来たため元禄十一年十月に当時の住職

日表上人が遠流の身となり當時は天台宗日老御門主上野寛永寺御預けとなつた。中興は隨道和尚で天保五年正月にソマの三峯山永隆寺に改め、翌六年二月に院号を妙蓮院と賜り明治に移すからは寺門はいたく衰微してソマが、同世年に墓地とも全部ソマの地域に移轉した。その跡は住宅地となり高連道路の一部などになつた。当寺には大乗寺時代の権川領主の墳墓と過去帳を保存し佛具として大乗寺の銘ある打鳴屋とがある。

過去帳、墓銘をありると

権川領主(初代)

一、統義院殿省徳主員大居士 言子保吉 西天九月二拾九日

戸川玄蕃トノ達富殿事

一、子息八木主馬 奥 戸川民部 殿

三好只二良 奥 本堂主計 殿 (苗親養子に行く)

宇津余太ノ奥 皆川右京 殿

木下刑部殿奥 戸川平六 殿 (達作)

一橋大膳殿奥

一、権川領主三代(達恒)

興雲院殿直覚義應大居士 明和九年八月十日

戸川内膳殿 四十二歳

三 四

一、権川領主 戸川内膳 達恒 室 (過去帳には毛利讃岐守の女ニナキ)

志親院殿諦了妙洋大姉 明和九年正月十三日 寂とあり

一、権川領主(五代) 戸川萬蔵 達義

覚真院殿室池昭達大居士 文化九年申八月廿八日 とあり

(過去帳には表向八月廿八日実は五月十日十九才寂)

一、権川領主(七代) 戸川達寛

敬徳院殿義岳達寛大居士 鳥居坂澤正殿御実子御身十八

歳御身也

墓石には敬徳院殿義勇俊現大居士 弘化四丁未年五月廿八日

戸川達寛之廟とある。

一、戸川氏累代氏の墓

信城院殿日友神尼 寛永二己丑年三月十日(秀安の室)

(庭頼日蓮宗信城寺は菩提寺である)

即相院殿照雲老貞大姉 元和三丁巳年六月廿五日(達安の側室正安の母)

相光院殿貞祐能大姉 天和三癸亥年九月十八日(正安の室)

室林院殿玉胡妙量大姉 寛文六丙午年八月廿日(正安の側室)

季陽院殿慶雲大姉 同十庚戌年三月十一日

真珠院殿芳身貞量大姉 享保五庚子年十月廿日(達富の室)

智証院殿妙信日秀大姉 享保十八癸丑年十月六日 (達宗の室)

惠観院殿諦了妙淨大姉明和九年一月十三日 (達恒の室)

貞照院殿智鏡真晴大姉寛政八兩辰年四月廿日 (達邦の室)

普老院殿貞室妙尚大姉文化十五戊寅年正月四日 (達義の室)

清種院殿玉室慈光大姉 文政三庚辰年五月十八日 (達美我の側女)

清法院殿妙華日窓大姉 明治廿三年六月十五日 三十九才 (達敏の后室)

清柳院殿真月妙円大姉 天保十四癸卯年七月十日 (達義の娘)

淨照院殿心月妙清大姉 享保十九甲寅年七月四日 (達富の娘)

再休院殿 量岳妙静大姉 宝曆十三癸未年十一月廿日 (達富の娘)

蓮如院殿鏡月妙清大姉 文化十四丁丑年七月十六日 (達邦の娘)

勝老院殿妙善日淨大姉 明治四年十一月廿五日 三十九才 (達敏の室)

○ 早島領主 戸川氏の菩提寺

○ 寺には檀川領主の奇殺の時代の墓(初代三代五代七代)のみが葬られている。如何なる理由によるものか不明である。

○ 東京都目黒区浄土宗増上寺下屋敷にある日取上寺である。

境内に

「故播磨守蓮庵 戸川安清墓」

その外夫人并に殺基の墓がある。安清は早島領主戸川安明より分家した

× 文化十三丙子年幕府諸御役中に交代御寄合表御社衆とある。

姓	戸川	幸姓	藤原	本回	安芸
上蘇布六本木大平ヨリ廿七丁	父万蔵	御内室 養父万蔵	達 壽 養女	子寅辰	浅沼市
戸川義六郎達義	柳之回	古田忠也	吉村弥治右門	午申戌	用 人
末西亥	参府	四月御暇	浅沼長吉	四月御暇	横田周治
天台宗	三田 大兼 寺				
五千石在所備中郡宇郎					
撫川 江戸ヨリ百八十リ示					

× 交代寄合とは五千石以下の旗本の寄合で江戸城諸門の警備を交代に準備する役人で表とは寄合衆の上にあるもの。

× 中庄領主(倉敷市)四百石(陣屋はなく早島にお預り)五代の領主にして父を安清(やすとさ)といひ江戸医師曲直瀬正山の二男に生れ戸川家へ養子にされた人である。正山の父は曲直瀬正珍といひ徳川將軍綱吉の侍医として仕えた家筋助である。安清はこうした関係から徳川將軍家育に仕え累進して筑前守に任ぜられ従五位下となり勳定奉行の要職を拝した。また文化十二年十二月より御台様御用人高五百石御役料三百俵を賜う。御台様といふは家督將軍の御正室である。家育は実父は一橋治清で幼名は曲直代といつた。御縁様(許嫁)が薩摩藩主島津重豪の女室子(ただこ)で双方とも四歳の時であつた。レカレ將軍になると御台様は京都の宮家か公卿の出から必お迎へることになつてゐるので室子は公家

近衛経熙の養女の形式で近衛玄姫と存った。そして寛政元年二月四日、十七歳に
存って挙式されて大奥の人となられた。安清は号を共達庵蓮仙といひ、篆字に巧み
にして大智勝心ル戸川家歴代中の傑物とされてゐる。

慶應四年三月五日八十三歳の高齡で江戸に返した。

○ 庭頼藩主戸川達安の三男戸川令安系統の菩提寺

東京都渋谷区永住町 禪宗 禪河山東北寺である。戸川令安は寛永十三年三代
將軍徳川家老に仕え三百石を賜わり子孫は幕臣として永く江戸に滞まつた

墓標には

浄明院殿 月潤斎清居士 天知二在 戌年八月三日 七十歳

妙覚院 如峯清真善信女 元禄十三庚辰年五月十日

令安とその室の墓である。

令安の系統を示すと

○ 義安 戸川達安の三男にして初の令安、千石分知 慶長十八年生 寛永十三年徳川家老に
仕えて高三百石直参となる。母は家女 妻家女

安直 又五郎、考四郎 慶安三年生 江戸松田郎に生る。懶者と号す。高千三百石

母某 室は御尚守居番久苗善兵衛正孫の女

寛文七年七月最有院様(將軍家綱)小姓並近習白、儒者にして書をよくす 字保
十六年正月十八日八十二才にて没す 縦藩斎実翁定心居士 東北寺に葬る

八

女 庭頼藩主戸川縫殿助安風の家来戸川助之進の妻

女 大番頭 岩田清右エ門 富秀の妻

安直 権右エ門 高千三百石 元禄九年 赤坂下屋敷に生る 母は久苗善兵衛正孫の女

妻は御書院番 松平遠江守組 設楽市十郎貞利の女

享保四年十月十八日小姓 酒井隠岐守組 御番入、宝暦六年十一月四日江戸にて

六十歳没す 東北寺に葬る 惺然院一山長山居士

安吉 又五郎 明和八年一月廿八日死 慈涼院俊堂了義居士

安勝 権左エ門 考左エ門 高千三百石 母は設楽市十郎 妻は西丸寺日院 松平備后

守組 長屋善三郎 景武の女

宝暦六年十二月廿七日大御所様附小姓 孝丸菊土間勤務、大御所様薨去の後、
孝恭院様附小姓 後ち若宮様附芙蓉土間勤務、寛政七年二月廿一日老中列
座 若年寄侍 登御渡、寛政十二年十二月三日死 七十歳
不門院一分羽全熟居士 東北寺に葬る

勝安 考左エ門 天明三年一月十八日死 玄性院 出峯年 続安居士

安親 富藏 天明四年四月十五日死

これと機会に旧家臣たちの合議の結果、長男を引き取り、戸川家を継がせ、縁あって長野県下伊那郡下川路村(いま飯田市)の出身、岡島定吉の長男、武雄を迎へて、戸川家の継嗣とした。その間に達人が生れたが、勤め先への九州福岡の九州大学附属病院で分勤。肥土は悪く、大正十四年八月九日夭折した。妻も産後健康を害し、同月廿日不幸にして此を去った。よつて武雄は后妻として、佐賀県佐賀市松原町の出身、松原方策の長女、愛子と婚し、三男三女の子福者で、現在長男が神戸市、バノラスト教会の牧師を勤めてゐるので、そのもとに止まり、現在神戸市生田区山手通り一ノ七番地に居住してゐる。

真達が関西中学校に在学中、宮田信次(の姪にあたる旧足守藩主)を在友の決の蔵元(足守領内の米穀をここに貯積して大阪へ送る所)を勤め、つた山野八十八の長女津子と恋仲となり、一子秀夫を生んだ。秀夫、表面は子でないので、私生鬼として山野家に引取り、更めて荒木喜助というものの養子にした。

おわり未だ

喫茶 食事 明治

庭瀬駅前通
電話 3-0325

吉備町平野国道筋 トモアザキ儀社

電話 三一〇〇四

有線 710番

